

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 12月 25日

事業所名 こぼんはうすくら 中原教室 保護者等数(15) 回収数13 割合 86.6

		チェック項目	はい	どちら も いい ない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13					
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	8	3	2		人員が足りない印象がある。	基準人員を超える配置が出来るように引き続き人員確保のため頑張ります。
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	13					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	12	1				
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	13					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	13					
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	13					
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	13					
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	5	3		5	こぼんはうすくら中原教室しか通所していないため不明。	
保護者 への 説明 等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	13					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	13					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	9	1		3	良く知りません。	
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	13				二重丸を上げたい気持ちです。	
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13					
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	3	3	5	まだ参加したことがないので。	令和5年12月16日第一回保護者会開催いたしました。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	12			1		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	13					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	10			3		
19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	13						
非常 時 等 の 対 応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	11	2				
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	10			3		
満足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	12	1			嫌がることはないが、まだ通所して間もないので楽しみだ！というところまでは至ってないが、行きたくないということはない。	
	23	事業所の支援に満足しているか	13					

260

14

5

20

87%

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 12月 25日

事業所名 こばんはうさくら 中原教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		広すぎる場合にはパーテーションで構造化している。	
	2 職員の配置数は適切であるか		5	制約のある人数の中でやるべきこと・守らなければならないことの優先順位を常に考えて支援に取り組んでいる。	職員が増員すること、運転手が増えること。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		机上で個別をする場所や集団で活動する場所などを職員と話し合い、参加者の特性別に合わせ、子どもたちが意欲的に取り組めるようにしている。	構造化された環境から、慣れてきたら少しずつ場所を広げていくなど、課題を到達した参加者には次のステップに自然に向かうようにプログラムを立てている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		清掃・消毒は毎日行い、ごみの処理もSDGsで仕分けを徹底している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3	開所して間もないのでこれから予定している。	まだ1年未満なのでそこまで至っていないが予定はしている。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5			令和5年12月5日に川崎市から実地指導を受け、評価や改善点(人員充足等)など明確になった。事業所内で共有し、引き続き質の良い支援に取り組みたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1	限られた人数で回っているため、常に時間に追われており、長い時間の研修の確保は難しいが、朝会や終わりの会などで研修している。	ゆとり丁寧に研修が出来る時間を確保するために人員を充足したい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5				
関係機関や保護	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	1		重心障害児はまだいないが、先天性の疾患を持った子どもへの対応は保育園やご家庭と共有している。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5			地域の協力機関の医療施設と契約している。またアセスメント等でかかりつけの病院の名前など(先生の氏名や何科かも)記載していただき、漏れがないように都度保護者に確認している。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		保育園等訪問や、園からの保護者会の参加、また他事業所とのカンファレンス、行政・小学校とのカンファレンス会議に参加している。	「学校そっくり模範」SSTを新一年生対象に第3回に分けて実施予定。

保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		送迎時の受け渡しの際に、学校での様子を毎回利用時に担当の先生にお聞きしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	共通の利用時は他事業所での様子を度々伺いながら到達や課題を確認している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	1	保育園訪問等を行っている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	1		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5		個々に各ご家庭に行っています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		令和5年12月16日第一回保護者会が終了しました。	
非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1		不定期に発行しているが職員が少ないため長時間デスクでの作業時間確保が厳しい。今後職員が増え時間に余裕が出来たら定期的に発行したい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5			職員が充足でき、活動を宣伝できる時間が確保出来たら是非取り組みたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル等をSSTで子どもたちに視覚・口頭提示で説明し、手本をみせ、訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		フェイスシート・アセスメント・モニタリング等面談で随時確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		フェイスシート・アセスメント・モニタリング等面談で随時確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			